



財団法人 成長科学協会

理事長 入江 實

財団法人成長科学協会は、身体の発育・成長の問題だけでなく心の発達に関しても強い関心を持ち、“心の発達研究委員会”（委員長：長田久雄・桜美林大学大学院国際学研究科教授）を中心として活動を続けております。

この委員会が企画いたします公開シンポジウムも今回で第17回目を迎えました。今回の主題は「心を伝え合う親子関係—コミュニケーションの不思議—」というテーマです。

現在第一線で活躍されている三人の研究者の先生方にご提言をいただき、現在社会的関心の深い親子関係について、ヒトや動物の母子コミュニケーションがその後の成長にどう影響するのかを中心にわかりやすく話ししていただき、ディスカッション及び質疑応答、まとめと進めて参りたいと思っております。

司会は、同委員会委員の上林靖子先生、宮尾益知先生にお願いしました。

是非、多数の皆様の御参加をお待ちしております。

### 「心を伝え合う親子関係—コミュニケーションの不思議—」

少子社会を迎えた今日、子どもの育児・養育に大きな関心が集まっております。特に、最も基本的となる親子関係の問題について考える重要性は高まっているといえましょう。

今回は、親子がコミュニケーションを通して、どのように心を伝え合うのか、というテーマに焦点を当てて、3人の方に話題提供をして頂くことを企画致しました。まず、小林登先生には基調講演として、小児科の立場から親子関係の問題をお話頂きます。次に、根ヶ山光一先生には、発達行動学の立場から霊長類の子別れについて、奥山真紀子先生には、小児精神保健学の観点から虐待がもたらす親子関係について、ご講演頂くこととしました。

親子のコミュニケーションには、不思議な現象があります。それらを、それぞれの専門領域からお話頂き、親子関係に関する理解を深めるために役立てて頂ければ幸いに存じます。

### 心の発達研究委員会

委員長	長田 久雄	(桜美林大学大学院国際学研究科教授)
副委員長	上林 靖子	(中央大学文学部教授)
委員	上村佳世子	(文京学院大学人間学部教授)
〃	柿沼 美紀	(日本獣医畜産大学獣医学科教授)
〃	小林 登	(東大名誉教授、国立小児病院名誉院長)
〃	高橋 桃子	(鶴川女子短期大学幼児教育学科教授)
〃	丹羽 洋子	(育児文化研究所長)
〃	廣中 直行	(専修大学文学部心理学科教授)
〃	宮尾 益知	(国立成育医療センター発達心理科医長)

## プログラム

テーマ： 「心を伝え合う親子関係  
ーコミュニケーションの不思議ー」

司会 上林 靖子

宮尾 益知

13:30~ 開会 あいさつ

演者からの提言 <基調講演>

入江 實

小林 登

根ヶ山 光一

奥山 眞紀子

休 憩

ディスカッション 質疑応答

ま と め

~16:30

## 演者紹介

上林 靖子 (かんばやし やすこ)

中央大学文学部教授。児童青年精神科認定医。前国立精神神経センター精神保健研究所児童思春期精神保健部長。'99~01 厚生省、AD/HDの診断・治療ガイドライン研究の主任研究者。

宮尾 益知 (みやお ますとも)

国立成育医療センター発達心理科医長。

徳島大学医学部卒業。1980年より自治医大小児科、86年よりボストン小児病院研究員、自治医大助教授、後国立小児病院神経科医長、2002年3月より現職。

専門：発達神経生理・心理学。

小林 登 (こばやし のぼる)

東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長。医学博士。

東京大学医学部卒業。アメリカとイギリスの小児病院に留学。東京大学医学部教授(小児科学)。国立小児病院小児医療研究センター初代センター長、国立小児病院長を歴任。現在は、インターネットのChild Research Net (<http://www.crn.or.jp/>) 所長として、国内ばかりでなく、国際的にも子ども学研究を進めている。

根ヶ山 光一 (ねがやま こういち)

早稲田大学人間科学部教授。専門は発達行動学。ニホンザルなどの母子関係の研究をふまえ、最近ヒトを含む母子の反発的關係や子別れ、あるいは親子の身体關係などを研究。

奥山 眞紀子 (おくやま まきこ)

小児科研鑽後、アメリカにて小児精神医学を学ぶ。帰国後、小児精神保健、特にトラウマや愛着問題の臨床と研究に従事。国立成育医療センターこころの診療部部長。